

会 議 録

会議の名称	令和5年度第1回坂戸市廃棄物減量等推進審議会
開催日時	令和5年7月4日（火）午後1時30分～午後3時10分
開催場所	坂戸市役所301・302会議室
議長（委員長・会長）の氏名	三島会長
出席者（委員）の氏名・出席者数	小川 邦雄 三島 康弘 榎本 歌予子 森 浩一 房野 洋 鈴木 郁夫 山崎 登喜子 杉田 義昭 井元 りえ 下山 光恵 遠藤 壽 (11名)
欠席者（委員）の氏名・欠席者数	なし
傍聴者の有無	無
事務局職員の職・氏名	環境産業部長 石坂 知巳 環境産業部次長 新井 仁 環境政策課長 間々田 征典 西清掃センター 所長 井川 紀彦 廃棄物対策課長 上 政雄 廃棄物対策課課長補佐 土井丸 大祐 廃棄物対策課廃棄物対策係係長 山崎 功一
会議次第	※ 開会前に委嘱状の交付（新任委員1名） 1 開会 2 挨拶 3 議事 (1) 坂戸市の廃棄物処理の概要について（報告） 資料1 (2) 第4次坂戸市一般廃棄物処理基本計画に係る進捗状況等について（報告） 資料2 (3) 令和5年度坂戸市一般廃棄物（ごみ）処理実施計画について（報告） 資料3 (4) その他 ・小型充電式電池等に係る分別区分の見直しについて 資料4、資料4の参考 4 その他 5 閉会
配付資料	・次第 ・委員名簿 ・席次表 ・資料1 坂戸市の廃棄物処理概要

	<ul style="list-style-type: none"> ・資料2 第4次坂戸市一般廃棄物処理基本計画に係る進捗状況等 ・資料3 令和5年度坂戸市一般廃棄物（ごみ）処理実施計画 ・資料4 小型充電式電池等に係る分別区分の見直し ・資料4の参考
--	---

議事の経過	
発言者	議題・発言内容・決定事項
事務局	(市長から委嘱状の交付)
委員	(自己紹介)
事務局	(出席状況の報告) (傍聴人なしの報告) (開会)
会長	《挨拶》
市長	《挨拶》
事務局	(市長退席) (事務局自己紹介) (資料確認) (審議会設置条例に基づき、議事進行に会長を指名)
会長	議事（1）坂戸市の廃棄物処理の概要について、事務局から説明してください。
事務局	(資料1にもとづき、坂戸市の廃棄物処理概要を説明) <ul style="list-style-type: none"> ・一部の数値が未確定であるので、今回は速報値としております。確定版は次回の会議での配布を考えております。 ・令和4年度は、3年度に比べてごみ・資源物の量が減少しました。 <ul style="list-style-type: none"> ・リサイクル率は減少傾向です。
会長	質問はありますか。
委員	坂戸市のリサイクル率は近隣市町と比較するとどうか。
事務局	日本経済新聞の調査によると、令和3年度の人口が10万人以上50万人未満の市リサイクル率について、全国1位は神奈川県鎌倉市、2位は東京都小金井市、3位が東京都国分寺市、4位が

	<p>岡山県倉敷市、5位が埼玉県加須市となっております。加須市は県内の市町村の中で第1位であり、リサイクル率は37.4%でした。当市の同年度のリサイクル率は28.9%で、県内では8位でありますので、リサイクルという面では進んでいるのではないかと考えております。</p> <p>また、当市の一人1日あたりの家庭系のごみ量は、613グラムとなっております。多いところでは1日1,000グラム近い排出量になっているところもあります。よって、ごみ減量という面においても上位に位置しているのではないかと考えております。</p>
委員	<p>令和4年度のリサイクル率は28.3%と、一時期に比べ低下しているがどう考えるか。</p>
事務局	<p>平成15年度と比べると平成16年度は大幅にリサイクル率が向上しております。これは指定袋導入に伴い、分別の徹底を図ったことから、大幅に上昇致しました。</p> <p>令和4年度については、28.3%と、平成16年度とくらべると下がっているといえますが、これは、ごみだけでなく、資源物の量も減少しているからと考えます。ごみ全体の量自体は減っている状況でありますので、引き続き、分別の啓発を行い、リサイクル率の向上に努めてまいります。</p>
委員	<p>リサイクル率の6ポイント減少はかなり大きいと思う。他の自治体で可燃物を燃やすしかないごみと表現を変えたところ20数パーセント減少したとの話を聞いた。分別の呼び方を変えることによりリサイクルをアピールする効果が期待できるのではないか。</p>
事務局	<p>貴重なご意見いただき、ありがとうございます。先ほど御提案のあった名称などについては、事務局の方でも検討してまいりたいと思います。</p> <p>現在当市では、リサイクルとは違ったごみ減量の取り組みとして、子育て世帯を支援するリユース（再利用）事業を実施しています。これは、粗大ごみとして収集したおもちゃやベビーカーなどのうち、また使えそうなものを取り分けておき、ほしい方にお譲りするという事業です。</p> <p>もう一つ、リユースの推進として「おいくら」があります。これは、不要となったものを一括で査定する民間業者と提携しておこなっているサービスで、無料で査定ができ、引き取ってもらえるというものです。</p>

	<p>これらはリサイクル率には反映されませんが、ごみの減量に資するものとして取り組んでおります。</p>
会 長	<p>ほかに質問がないようですので、次の議事に移ります。</p> <p>議事（２）第４次坂戸市一般廃棄物処理基本計画に係る進捗状況等について事務局から説明してください。</p>
事 務 局	<p>（資料２第４次坂戸市一般廃棄物処理基本計画に係る進捗状況等をもとに説明）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第４次坂戸市一般廃棄物処理基本計画の中で、計画に掲げた数値目標や各施策の進捗状況の把握、評価を行うこと、政策の進捗状況を、坂戸市廃棄物減量等推進審議会に報告し、客観的な視点から点検評価を行うとされておりますことから、毎年御報告させていただいております。 ・「推計値」は、基本計画の策定及び改訂時に、年度ごとに予測した数値、「目標値」は、推計値を基にして、ごみの減量化に向けた施策・取組を行った上で目標として目指す数値、「実績値」は各年度の実際の数値を、「目標達成状況」は、目標値に対する実績値の割合となります。 ・１人１日当たりの家庭系ごみ排出量は、令和４年度の目標値６０１グラムに対し、実績値６１３グラムとなり、達成状況は９８％で、目標を達成できませんでした。 ・事業系ごみ排出量は、令和４年度の目標値５，１５１トンに対し、実績値は、４，５０１トンとなっております。 ・リサイクル率は、令和４年度の目標値２８％に対し、２８．３％と、目標を達成しております。 ・最終処分率について、令和４年度は２．２％となり、目標を達成しております。 ・生活排水処理率について、令和４年度は９１．８％と、目標を達成しております。
会 長	<p>質問はありますか。</p>
委 員	<p>１人１日当たりの家庭系ごみ排出量について、新型コロナウイルスの影響を受けてごみが増えるかと思ったがさほど増えていない。理由はわかるか。</p>
事 務 局	<p>令和２年度は元年度と比べ３３グラム、３年度は２２グラム増えております。一見わずかな量ではありますが、これを市全体とすると令和２年度は元年度と比べおよそ１，０００トンの増加となっております。部屋の中の片づけのため、燃やせるごみよりも</p>

	粗大ごみや燃やさないごみが増加したものと考えられます。
委員	生ごみを土に戻すとごみの量は減る。ただ、マンションに住んでいる方は、生ごみをたい肥化するのは難しいと考えるので、何か良い方法があればと思う。
委員	ダンボールコンポストという方法がある。他市では肥料になったものを引き取るシステムがある。
事務局	燃やせるごみのおよそ1割は厨芥類です。これは乾燥後の数字であるため、水分を含んだ状態ですと、3割ほどになると見込まれます。当市では生ごみを減量するため、生ごみ処理器の補助を行っております。令和4年度は77基、80万円強の補助を行いました。 環境学館いずみでは、先ほど話のあったダンボールコンポストと似た、生ごみの処理に関する講座を昨年度からはじめました。まだ受講者が少なく認知度が高いとは言えない状況ですが、引き続きごみの減量に努めてまいりたいと思います。
委員	環境学館いずみで生ごみに関する講座を行っているのは知らなかった。とても良い取り組みであると思う。
会長	ほかに質問がないようですので、次の議事に移ります。 議事(3) 令和5年度坂戸市一般廃棄物(ごみ)処理実施計画について、事務局から説明してください。
事務局	(資料3 令和5年度坂戸市一般廃棄物(ごみ)処理実施計画をもとに説明) ・「一般廃棄物(ごみ)処理実施計画」は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律、廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則」及び「坂戸市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例」の各規定に基づきまして、「一般廃棄物処理基本計画」の実施のために、必要な事業について、毎年度「実施計画」として策定し、公表することとなっています。
会長	質問はありますか。
委員	8一般廃棄物の処理計画の(3)委託による処理というのは、坂戸市でできないものを処理しているということによろしいか。
事務局	坂戸市で処理できないものを市外の施設で処理をしているものです。 (株)リシステムには、容器包装プラスチックの選別等を委託し

	<p>ています。加藤商事（株）にはペットボトルの選別等を委託しております。太平洋セメント（株）には、西清掃センターで焼却したあとの灰の処理を委託しています。以前はサツキクリーンセンターに埋め立てておりましたが、埼玉県が最終処分場の延命のため、焼却灰のリサイクルを確立させましたので、当市もこれにそって、セメントの原料にする処理をしています。ツネイシカムテックス（株）についても焼却灰の処理の委託をしております。こちらは、人工砂にリサイクルをしております。野村興産（株）には、乾電池や蛍光管の処理を委託しております。木村建材工業（株）については、東清掃センターに搬入されたコンクリートの破片の処理を委託しております。</p>
委 員	<p>ペットボトルの使用量が増えすぎて、処理が追い付かないと聞いた。ペットボトルを使わないようなライフスタイルへの意識の転換していく必要があるのではないかと思う。</p>
事 務 局	<p>ペットボトルの処理が追い付いていないという指摘については後日確認したいと思います。ペットボトルのリサイクルについて、以前は繊維へ再生していましたが、近年はボトルからボトルへのリサイクルが確立し、技術が進歩しているものと認識しています。</p> <p>また、最近マイボトルを持ち歩く方も増えております。マイボトルを使用することにより、ペットボトルの使用量を減らすことができますので、引き続き啓発に努めてまいりたいと思います。</p>
会 長	<p>ほかに質問がないようですので、次の議事に移ります。</p> <p>議事（４）その他について、事務局から説明してください。</p>
事 務 局	<p>（資料４小型充電式電池等（リチウムイオン電池等）に係る分別区分の見直しについて及び資料４の参考をもとに説明）</p> <p>近年、リチウムイオン電池を使用した電化製品が原因となった火災が全国で発生しています。</p> <p>坂戸市でも、東清掃センターでの発火が年々増加していたため、令和３年１２月から、「小型充電式電池等」及び「充電式小型家電等」の分別収集を開始しました。</p> <p>分別収集の開始直後は、東清掃センターでの発火件数が減少しましたが、発火件数は、再び増加傾向にあります。</p> <p>原因として、燃やさないごみに、充電式小型家電やスプレー缶等が混入していることと、分別方法が複雑で分別区分の名称が似ていることから、分別方法が市民に浸透されていないものと考え</p>

	<p>られます。</p> <p>そこで、発火のおそれのある物を別の区分とする分かりやすい分別方法にすることを現在検討しています。</p> <p>今後、詳細部分の検討を行い、次回の廃棄物減量等推進審議会で意見を伺いたいと考えています。</p>
会 長	質問はありますか。
委 員	東清掃センターでの火災は水で消火しているのか。水をかけると余計に発火しないか。
事 務 局	消火器を使用しますと施設の復旧に支障をきたす為、水のみで消火をしております。現在のところ、水が原因での延焼は確認されておりません。
委 員	実際に使用している人達は、自分が使用している製品が発火してしまうという意識がないのではないか。
事 務 局	引き続き、リチウムイオン電池が使用されている製品は発火する危険があるということを周知していきたいと思います。
委 員	どのように市民に周知していくかというのが難しいと思う。
委 員	坂戸市は先進的に取り組んでいる。他市では何に分別するのか決まってないところが多い。
事 務 局	当市ではリチウムイオン電池に関し、様々な周知や広報を行っており、NHKが取材に来るほどであります。しかしながら、火災の件数は減っておりません。つきましては、根本的な解決として分別を見直さなければいけないのではないかと考えております。
委 員	リチウムイオン電池のほかに、発火の原因となるものはあるのか。
事 務 局	スプレー缶が原因となっている火災があります。
委 員	先ほどスプレー缶について国は穴を開けないで排出するよう求めているという話があったが。
事 務 局	使い切るという点は共通していますが、スプレー缶の穴開けにより発生したガスに引火して爆発を起こした事件を契機として、国は通知で、スプレー缶は穴を空けずに回収するよう求めています。今後分別を見直す中で、スプレー缶の穴開けについても見直しを考えてまいります。

委 員	リチウムイオン電池のことについて、分別を教えるような人はいるのか。
事 務 局	坂戸市では令和3年度に環境省のモデル事業に指定されて以降、西清掃センターの職員が一連の取り組みを埼玉県や千葉県で紹介しております。
会 長	全体をとおして何か質問はありますか。
委 員	ペットボトルを使わないようなシステムを導入しなければならない。
委 員	ペットボトルについて、販売価格に20～30円上乗せして、返却したら返還するようなシステムを構築しないと、現在のような大量消費型からの転換は困難ではないか。
委 員	プラスチックを原料である石油に戻せばよいのだが。
委 員	プラスチックはさまざまな素材でできていることから組成に偏りがあるため、石油に戻すことは不可能ではないがエネルギーを大量に消費すると聞いた。また、ペットボトルのリサイクルは、ボトルからボトルへ再生するのが主流だと聞いている。また、そのため、いずれにせよ、リサイクルするからたくさん消費してもよいという考えは変えなければいけないと思う。
会 長	質問がないようですので、以上で議事を終了します。 《挨拶》
事 務 局	(閉会)